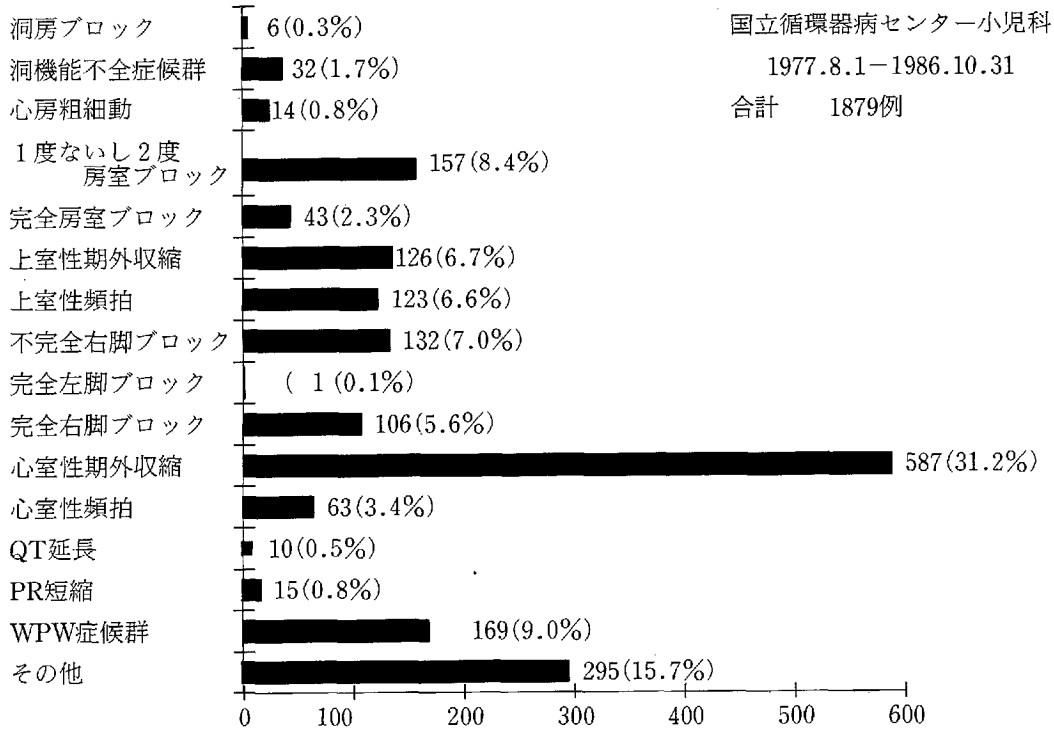
不整脈による突然死例の検討

神谷哲郎（国立循環器病センター 小児科）

図１に国立循環器病センター小児科外来における不整脈例の内訳を示した。

図１　外来における不整脈の内訳



小児期に最も多いのは，心室性期外収縮であり，外来での不整脈全体の 31.2％を占めていた。ついで WPW 症候群が 9.0％，１ないし２度の房室ブロックが 8.4％，不完全右脚ブロックが 7.0％，上室性期外収縮が 6.7％などの順であった。WPW 症候群としたものは，デルタ波があって頻拍発作の既往がないものの数であり，頻拍発作を認めた例は上室性頻拍として扱った。洞性不整脈や心電図の ST-T の変化のために来院した例などはその

他の群に入れた。

臨床上重要と考えられる不整脈の頻度および器質的疾患の有無についてみると，心房粗細動例が14例で，器質的心疾患のない例が5例，器質的心疾患のある例が9例。完全房室ブロック例は43例で，器質的心疾患のない例が25例，器質的心疾患のある例が18例。上室性頻拍は123例あり，器質的心疾患のない例が110例，器質的心疾患のある例が13例。洞機能不全症候群は32例で，器質的心疾患のない例が17例，器質的心疾患のある例が9例。心室性頻拍は63例で，器質的心疾患のない例が56例，器質的心疾患のある例が7例であった。

全体の不整脈のうち，臨床上重要な不整脈の占める割合は，275例（全体の14.6％）であった。臨床上重要な不整脈で器質的心疾患が認められた例は56例（20.3％）であった。このうち，器質的心疾患としては，先天性心疾患の術後例が26例と最も多く，先天性心疾患が20例，心筋症が10例であった。

不整脈による死亡例についてみると，心室性頻拍が4例，心房粗動が2例，持続する上室性頻拍が2例，完全房室ブロックが2例，2度房室ブロックが1例，洞機能不全症候群が1例の計12例であった。このうち，心室性頻拍の3例，房室ブロックの2例，上室性頻拍の2例，心房粗動の1例の計8例に器質的心疾患が認められた。器質的心疾患としては心筋症が6例と最も多く，手術後例が2例であった。2度の房室ブロックに完全右脚ブロックおよび左軸変位を伴った1例では，剖検により虚血性心筋疾患が疑われた。この症例は臨床上は器質的心疾患がないと判断されていた。

12例中，運動中の死亡例は1例もなく，運動前あるいは階段昇降時の死亡が2例，他の状況下での死亡例が10例であった。

不整脈による死亡例は，器質的心疾患を伴っていることが多かった。また，器質的心疾患を伴わない例でも失神発作の既往が2例に認められた。器質的心疾患を伴った例あるいは失神発作の認められた例では，注意が必要と考えられた。　（研究協力者　新垣義夫）